

令和5年度北上市議会新清会活動報告書

期 日	内 容	場 所
7月31日(月) ～8月1日(火)	北海道函館市 テーマ：・基礎からわかる学校統廃合 ・10年目までの議員向け特別セミナー 説明者：宮本 正一	北海道函館市松風 町13番14号 ホテルサンシティ 函館
	藤本 金樹 菊池 勝 昆野 将之 藤原 常雄 居駒 勉	
10月24日(火) ～26日(木)	(10月24日) 熊本県大津町 ・大津町の取り組みについて (TSMC進出に伴う町の動き等) 説明者 大津町町長 金田 英樹 他職員	熊本県 大津町
	藤本 金樹 菊池 勝 昆野 将之 居駒 勉	
	全国市議会議長会研究フォーラム (10月25日) ・基調講演「躍動的でワクワクする市議会に」 講師 片山 善博(大正大学教授兼地域構想研究所長) ・パネルディスカッション 「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」 コーディネーター 谷 隆徳(日本経済新聞社編集委員) パネリスト 勢一 智子(西南学院大学法学部教授) 辻 陽(近畿大学法学部教授) 濱田 真里(Stand by Women 代表/女性議員の ハラスメント相談センター共同代表) 田仲 常郎(北九州市議会議長)	福岡県 北九州市 西日本総合展示場 新館
	藤本 金樹 菊池 勝 昆野 将之 藤原 常雄 居駒 勉	

研 修 報 告 書

北上市議会議長 様

北上市議会 新清会
会長 藤本 金樹

次の 研修 について結果を報告します。

期間(期日)	令和5年7月 31 日(月)～8月1日
視察先 視察内容 または 研修事項	北海道函館市 ・7月 31 日 テーマ:「基礎からわかる学校統廃合問題」～議員20年の経験から語る基礎講座～ 講師:日本公共経営研究所 宮本 正一 ・8月1日 テーマ:「10年目までの議員向け特別セミナー」 講師:日本公共経営研究所 宮本 正一
参加者	藤本 金樹 昆野 将之 菊池 勝 藤原 常雄 居駒 勉
[内容及び所感]	7月 31 日 日本全国を取り巻く、少子高齢化の中で小中学校の統廃合は共通の課題となっている。北上市も川東地区の小学校の4校の統廃合が行われ、当市としても今後重要課題となっている。 講座では、文科省からの通達内容についても説明があり、学校統廃合の基本的な考え方について知ることができた。各自治体の公立小学校、中学の適正規模・適正配置は、文科省の通達に基づき進められていることも確認できた。 具体例として、講師が市議会議員として進めた寝屋川市の例をもとに説明を受けた。寝屋川市の例で学ぶ点は、市全体でどうあるべきかを想定し、進めた点は参考にすべきである。 当市は、地区単位または中学校区をベースとして進められているが。今後さらに人口減少が進み児童生徒の数が減ると、再度の統廃合を検討する時期が来てしまうことになる。 50年後を見据えての計画を立て進めるべきと思った。 その場合、子育て世代や地域への理解を得るにはかなりの労力を要することが想像される。 講座の中盤は、議会での進め方について説明があり、市長との関係、議長との関係、常任委員長はどのような議員になるべきかなど、難しい課題を解決するための戦術は、ハードルは高いが参考となった。 講座の後半は、廃校となった学校の利活用についての紹介があり、立地条件な

ど様々な要件は、あるが採算がとれるところまでとなると、かなり難しいと感じた。

8月1日

議員の誕生、スタートはどのようなかたちで立候補し、議員になるのかについての説明があった。今まであまり考えていなかったが、いろいろなパターンで議員を目指す形があることを認識した。

議員としての心構え、次の選挙を考えないで、1期4年でしっかりと仕事すること、これは大変大事であり、心がけてやっていきたいと感じた。

また、これからの地方議員は、新しい市民のニーズへの対応、地域問題の明確化、その解決プロセスの可視化が大事ということであるとのことで、当市議会では、政策サイクルを回す中で、市民方々へ議員の活動を理解してもらうことが進められており、ベクトルはあっているのかと感じた。

その他、請願に対する対応や情報公開請求、住民監査請求、直接請求など様々な方法で当局に市政の課題に対し深堀ができる手法についても理解でき良かった。

講師の方は、維新の会として活動してきた方で、基本は改革で当局と対峙して議員活動をしてきたと感じた。

二日間の講座であったが、20年間市議会議員としての経験をもと説明していただき大変、有意義な講座であった。

【居駒勉】

1、「基礎からわかる学校統廃合問題」

◎ 我が国が直面する学校統廃合について

文部科学省は「公立小学校・中学校の適正規模・定期性配置等に関する手引き」を策定し、2015年1月27日、各教育委員会に通知されたが、この10年間で小・中学校の1割にあたる3,000校が統合され、標準規模に満たない学校が約半数存在している。

今後、少子化により学校の小規模化に伴う教育的デメリットの顕在化が懸念される。統合が困難な地理的特性や地域コミュニティの核としての学校の重要性への配慮が必要。各市町村の実情に応じた活力ある学校づくりを推進する必要がある。

◎ 地元の学校が無くなる！その時の議員としての関わり方について

- ・校区問題審議会へ諮問書、答申(規模・適正化) → 教育長
- ・本会議に「学校設置条例の一部改正案」上程
- ・文教常任委員会への委員会付託 → 委員長ポスト、当日進行
- ・修正案の動議提出・修正案・本案採決・付帯決議採決
- ・請願採決
- ・本会議採決

2、「10年目までの議員向け特別セミナー」

- ・初当選議員が失敗するポイント について
(戦略と戦術・市民陳情・市民要望・請願・情報公開請求・住民監査請求・直接
請求・会派結成・政治団体結成・立候補・ 議長の 5 大権限)
- ・知識がない議員の発言は誰も聞かない について
- ・議会のルールに翻弄される について
- ・質問する際におさえるポイント について
- ・大学教授や先輩議員に質問の仕方を聞くと必ず失敗する訳 について

最後に、今回は会派による特別セミナーは学校統廃合問題と新人議員向けの特別セミナーであり、また参加者もそれほど多くなく(20 名位)、身近な問題が多く分かりやすく説明して頂き楽しく学ぶ事が出来、今後の議会活動に生かしたいと思えます。

【藤原常雄】

市町村合併から始まった学校の統廃合について、文部科学省の手引や通知、関連閣議決定文書、関係法令等を読み解きながら、少子化に対応した活力ある学校づくりについて学びました。例として寝屋川市の学校統廃合について国際コミュニケーション科英語教育の接続等、特徴ある小中一貫教育を打ち出し、学校選択制等も考え、小学校統廃合を議論し進めてきた経緯は、大変参考になりました。また、それに伴う議会運営の在り方や小中学校の規模と配置の適正化への考え方も参考とさせていただきたいと感じました。また、廃校施設の活用例も示され、宿泊施設やビジネススタートアップの機能、地元雇用に貢献できる「新生校」という新たな取り組みも示されました。学校の統廃合における議員としての関わり方の基礎を学ぶ事ができました。

10 年目までの議員向け特別セミナー1
～議員 20 年の経験から語る基礎講座～
講師：宮本正一氏

【所 感】

初めに、北上市の財政状況について、総務省の「財政状況資料」を基に客観的に数字から読みとる重要性を講義いただき、他市との比較においては、数字の見方、捉え方を教えていただきました。また、これからの地方議員には、①新しい市民ニーズへの対応力と②地域問題の明確化。そしてこれらを解決すべく③そのプロセスの可視化が大切であり、特に①新しい市民ニーズへの対応力が一番求められていること。更にこれからの地方自治体として①効率的(財調)・自主的な経営。②市民・NPO団体との具体的な協働。③これらを実現、実践してくれる地方政治家の選出を最重要暗記項目として上げられております。

私は、改めて地方政治家として自治体が抱えている問題点を明らかにする議員リポートの作成と配布。それに対する自分の意見を広く住民に訴える街頭演説等。住民から直接意見を聴く場を設ける極めて大切な政治活動と、議員活動として、公

聴会や参考人の意見聴取を行う制度の積極的な活用。学識経験者等の意見を議場の場で公にして、住民が参画できる機会を積極的に創ることが重要であり、その為の政務活動でなければならないと強く感じました。当たり前のようではありますが、地方政治家として地方議員として、更には議会として、取り組むべき強い意志や計画的なフローを確立することによって、民意が反映される政策提言となり、実現可能なものとなることを改めて感じました。

【菊池 勝】

7月31日

少子化社会での財政の面から見た統廃合の話だった。

例として、統廃合の問題では地域の住民(子供も含め)と職員も加わって何度もワークショップをしたり、意見交換をして、合意形成をした話があり、北上には足りないことだと思った。

話の内容はよくわかる話だったが、過疎の町では学校は町づくりの一角でもあると私は考えているので、気持ちの面からは、釈然としなかった。

8月1日

議員になってやった方がいいこと、ダメなこと。や、講師が議員だったころのテクニクやコツなど、話されたが、当議会では馴染まないのではと思った。

話の後半で SNS を利用した選挙の広告や、活動の仕方の話があったが、都市部では当たり前になりつつあるようだが、いずれ北上も SNS の活動が当たり前になるのだと思った。

【昆野将之】

7月31日

少子化により、全国で小中学校の統廃合が進行していると今まで思っていたが、さにあらず国が推進した市町村合併が発端で現在も進められていると知ることができた。

しかし、現在過疎地域においては人口減少と少子高齢化が顕著であることから、「小中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましい」と文部科学事務次官より、学校適正化に関する通知が出されております。

だがその通知より前に、昭和30年代には「少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて」手引きを策定しており、その後も時代とともに少子化による児童生徒の減少予測から、小中学校統廃合を促す法改正並びに規則の制定等を行い、各自治体へ学校適正配置について促していた。

それらを鑑みると、国としては今後少子化による人口減少社会へ進んでいくことは想定していたのではと感じた。

その時代より、人口問題に取り組んでいたら現在とは違った社会になったのではないだろうか、今回のセミナー名においては学校統廃合の問題として受講したが国の取り組みに疑問を持つことになった。

	8月1日 議会として、議員としての市民対応の考え方並びに市職員等への接し方、何となくわかっていただいていたがいざ文字にすると若干のずれが感じられた。 再確認として、1、新しい市民のニーズへの対応(SNS 等での情報提供) 2、地域問題の明確化(自治会等との関係) 3、問題解決の可視化(現場主義・担当課との協議の場)の3項目を心がける。 一般質問等においてそれらを踏まえながら、関係する法・規則・条例等に目を通すことが必要。 今後は、当地区においても身近な問題であることから、地域振興協議会との協議を重ね、地域において禍根を残さぬよう提案含め推進していきたいと思われる研修でした。 【藤本金樹】
--	--

研 修 報 告 書

北上市議会議員 様

北上市議会 新清会

会長 藤本 金樹

次の 研修 について結果を報告します。

期間(期日)	令和5年 10 月 24 日(火)
視察先 視察内容 または 研修事項	大津町役場 TSMCに伴う大津町の影響について (熊本県菊池郡大津町大字大津1233)
参加者	藤本 金樹 昆野 将之 菊池 勝 藤原 常雄 居駒 勉
[内容及び所感]	TSMCの建設途中の状況を、車より視察。デントコーン畑の中に巨大な工場が建設中で、工業団地整備を進めながら、キオクシアを誘致した本市とは逼迫度が違うと感じた。 金田町長より、大津町についての説明がありました。前段でも述べた通り、TSMCの工場建設は時間もないなか決定し、環境整備はまさにこれからであり、本市は工業団地整備がされ、また、ジャパンセミコンダクター社がある中での誘致建設ということで、課題と問題点はスピード感が違うと感じた。 抱えている課題は、ほぼ本市と同じではあるが、急遽の建設決定で幹線道路の渋滞、住居不足、農地を建設用地への転用による農家の存続問題、地価の異常なほどの高騰(地価高騰は全国一位とのこと)、課題は山積している。 解決策は、柔軟な感じがした。幹線道路は、国・県と一体となって取り組みが進んでいる点は、本市もさらに発展するためには参考となった。 更には、空港の利用も鉄道網の整備も含め現在あるインフラ資産を有効に活用し、鉄道に関してはさらに延伸など、他の地域ではなかなかできていないところを取り組んでいる。 また、大津町は人口が一次1万6千人迄減少したが、本田技研工業の企業誘致で人口が倍に増えている、今後、TSMCの誘致によりさらに増えていく事が予想され、地域づくり、コミュニティーの在り方はさらに難しさを増してくると予想される。 九州は、シリコンアイランドと言われ、また自動車関連の向上も多く、本市の状況と似ており、今後の様々な対策は参考と考える。 今回、多忙な中対応していただいた金田町長はじめ関係各位には本当に感謝いたします。 【居駒勉】

視察した大津町は人口 36,000 人、総面積 99,10Km²、総面積約半分が山林、商業施設が集積、からいも、畜産業などの農業も盛んで「農工商併進のまちづくり」。北上市の総面積 23%・人口 40%である。

大津町に隣接している、菊陽町に半導体大手の台湾積体回路製造(TSMC)は投資額約 1 兆円、雇用予定者数約 1,700 人の新工場完成が近づく菊陽町・大津町を中心にインフラ整備が急ピッチで進んでいるが、TSMC進出後、大津町への新たな進出・増設企業数 25 件あり、急速な土地値上り、人材不足、道路渋滞による拡張や新設、住宅の建設など課題が山積している。少し前の北上市を見ている感じがして興味を持って(過去・現在)研修する事ができた。

【藤原常雄】

昭和 50 年(人口 18,086 人)に本田技研工業(株)が操業開始して以来人口は増加(令和 3 年 36,029 人)している。交通アクセスも良く、高速道は福岡市まで 1 時間半、JR、空港アクセスは、阿蘇くまもと空港まで、空港ライナー(1 日 54 便無料)であります。バイクのまちとしてのブランディングも盛んに行われております。

TSMC(JASM)新工場は、設備投資額 1 兆円、雇用予定者数約 1,700 人、月間生産能力 55,000 枚(12 インチウェハー換算)であり、新生シリコンアイランド九州として半導体産業の集積強化と物流の大幅な増加が見込まれております。TSMC 進出の影響としては、企業進出の激増(R3 年以降増加決定 20 社超であり新規雇用予定は 1,000 人)、地価上昇日本一。高層賃貸マンション等の建設ラッシュ計 2,000 戸超であります。特に台湾から家族と一緒に高層マンションへの移住が進んでおり、学校との連携も急務となっている。更に宿泊、商業施設の出店に向けた動きも活発になっている。課題は、交通渋滞・交通安全面への対策。人材確保。開発と農業振興のバランス。水資源をはじめ、環境配慮。治安の維持。コミュニティー維持。が上げられておりました。特に企業誘致に関して、「企業誘致パートナー制度」の活用については、町が不動産、金融機関と進出企業の情報共有(プラットフォーム化)による一体的な支援は参考になりました。100 年に一度の好機を最大限に生かし企業、住民に選ばれるためのまちづくりを行っている大津市の取り組みは、国、県へのトップセールス等、今後の展開が期待されるところであります。

【菊池 勝】

大津町長から直接の説明だった。

TSMCは北上のように誘致をして決まったわけではなく、いきなり進出の話があり、町として受け入れ準備が全くできていないとのこと、建設作業員や社員の泊まる場所、道路などのインフラ、公共交通など整備が追い付かないと説明を受けた。

実際に街を見たが、民間業者があちこちで開発しており、街並みが、いびつに見えた。

半導体には大量の水が必要だが、周辺には川がなく阿蘇山の地下水を利用とのこと、地下水で賄えるのか聞いたが、地下水は豊富なようで、大丈夫とのこと、た

だ稲作農家には冬の間、水田に水を張ってもらうようにしていると話があった。

【昆野将之】

人口 36,000 人、面積 99.10k m² 総面積の半分が山林であり、農地の殆どは畜産業に関係した耕作が行われ、ハウスを利用した畑作も見受けられる。

以上のように農業を生業として来た大津町ですが、1976 年に本田技研工業(株)熊本製作所が国内唯一の二輪生産拠点として操業されたことから、本田技研関連事業所等の誘致が進み、農地から工業団地への転換により更なる工業化に弾みがついている、過去には近隣市町との合併構想も持ち上がったと伺ったが、現在では、財政事情に好転の兆しがあることから立ち消えとなっている。

今回の視察の目的である、台湾企業の半導体製造大手 TSMC が進出したことでの問題を探っていきたい。

北上市と同じような状況と捉えたが、現地を見て率直に今後の拡張性に展望が見受けられる。

- ① 平坦でまだまだ棟数を増やす余地が見受けられる。
- ② 国・県又台湾側も増棟に意欲が見受けられると伺った。
- ③ 交通アクセスが良い。(熊本空港が近い・空港と大津町新たな鉄道ルート決定・熊本台湾直行便増)
- ④ 東海大阿蘇くまもと臨空キャンパス開校。(人材確保)

問題としては、北上市でも同じように交通環境が現実に追いついていない各所での交通渋滞対策と住居の不足が深刻と説明された。

住環境の整備は計画的に進めているが、それ以上に環境変化が速くインフラ設備が追い付いていない、又、財政見通しは明るいものがあるが、インフラ設備は先行投資であることから財政運営に慎重を期さない事には難しい状況となるのではと感じ入った。

半導体企業誘致は今後も進めていくべきと思うが、北上市以外にも適地が見受けられることから市・県との連携は今後とも必要と感じ、インフラについても北上市に住み続けることを見据えた取組が無いと、他地域に足元をすくわれるのでは感じた。

【藤本金樹】

研 修 報 告 書

北上市議会議長 様

北上市議会 新清会
会長 藤本 金樹

次の 研修 について結果を報告します。

期間(期日)	令和5年 10 月 25 日(水)～26 日(木)
視察先 視察内容 または 研修事項	第1日目 ・基調講演「躍動的でワクワクする市議会に」(予定) - 片山 義博 大正大学教授兼地域構想研究所長 ・パネルディスカッション「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」 - コーディネーター 谷 隆徳 日本経済新聞編集委員 - パネリスト 勢一 智子 西南学院大学法学部教授 - 辻 陽 近畿大学法学部教授 - 濱田 真理 Stand by Women代表 - 鷹木 研一郎 北九州市議会議長 第2日目 ・課題等議「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」 - コーディネーター 江藤 俊昭 大正大学社会共生学部公共政策学科教授 - 事例報告者 辻 弘之 登別市議会議長 - たぞえ 麻友 一般社団法人WOMAN SHIFT理事 - 目黒区議会議員 - 永野 慶一郎 枕崎市議会議長
参加者	藤本 金樹 昆野 将之 菊池 勝 藤原 常雄 居駒 勉
[内容及び所感]	「躍動的でワクワクする市議会へ」 【所感】 片山先生からは、厳しい叱咤激励を受けたと感じました。議員としての活動をどうとらえどう行動するか、しっかりとした裏付けが必要でそのために、自身が動かなければならない。 予算審査や決算審査、様々なやり方がある。私たちも議論している、参考人を呼んで意見を聞くなど、その道の詳しい方からの意見を聞くことは、これからの活動に参考となった。 「統一地方選挙の検証と地方偽果の課題」 【所感】

統一地方選協と題していたが、やはりたどり着くのは議員のなり手不足であった、翌日のテーマでもあり、全国的な問題であると改めて感じた。

全国市議会議長会の会長挨拶で、議員の厚生年金加入を要望していくとの話があった、このことからわかる通り、総合的には解決策は議員が安心して議員活動と生活ができることが重要である。

我々議会が、議論している内容は全国的にも同様な内容で、市だけの単位ではなく全国組織での検討が必要である。

各議会のできること、議員一人一人ができることはしっかりと行うべきであるが、制度や全国的な共通の課題は全国規模での議論が必要で解は既に出ていると思う、改革・改善は前に進めるべきと考える。

【居駒勉】

基調講演「躍動的でワクワクする市議会」、パネルディスカッション「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」の研修に参加しましたが、参加して特に興味を持って研修できたのは片山喜博教授の基調講演「躍動的でワクワクする市議会」の中で、

○現状とこれまでの地方議会改革を検証すると、議会で議案の討議がされていない、審議されていないから予算案が変わる事がない。

議論したって何も変わらない、公開の場(議事堂)で真剣に議論しているか、予算案の修正が良くある方がよい。

○地方議会に欠けていることは、住民の関心を高める、住民の意見を聞く。

○議会の権限を活用してもっと積極的に取り組むべき、議案をもっと丁寧に審議する、執行部の提案を良く聞く、問題がある時は地域住民を呼んで聞く(当事者に聞く)、執行部がやらない時は議会がやれば良い。

○議会の常識と市民の常識をすり合わせる、市民が首を傾けることとは。

教育現場は先生が忙しすぎる、教員のなり手不足、現場が改善されていない、教育委員会に責任がある、県と相談すれば良い、市と県が折半すれば良い、独自のシステムをつくる事が大事。教育長の任命は議会で吟味する。仕事出来るか、県教育長にもものが言えるかチェックする事が大事である。など色々と参考になる事が沢山あり今後に生かしたいと思います。

【藤原常雄】

パネルディスカッションの中で、「社会経験を活かせる議会」「議会経験を活かせる社会」という発言があり、これを行うための最善の方法については、議員、議会活動のいろいろな取り組みからしか得ることが出来ない。むしろ、議員として、社会人として自らの経験を社会に活かす視点の重要性を教えられた様な気がします。人生のライフステージにおいてキャリアとしての議員という考え方、その経験を、次なるステップも考え、活かせる議員としての考え方は、特に若い議員であれば可能であり、議員任期の年数へのこだわりや、議員でいる事からの実績へのこだわり。最終就職先とみられるような言動等、議員としての取り組みや経験を次につなげる政策本位の任期としての考え方の重要性を学びました。

その他、議員のなり手不足問題における小規模自治体の課題として、議会事務局職員の数(政策調査や立案サポート)の限界についても触れられておりました。また、議員として、議員報酬だけで生活できる、つまり「専業化」出来るのか「兼業」しないと生活できないのか。二元代表制として、議会活動に専念できる「専業化」への環境を整えることへも触れられておりました。私は、なり手不足等については、これまで、議員から、また市民と議会をつなぐ会等で、市民の皆さんからいろいろなご意見を頂戴して来ました。その過去を振り返り、議員として、議会として、自らの政策は、最善なのか、再度考える機会となりました。

【菊池 勝】

パネルディスカッションで、なり手不足の小規模自治体となり手不足の大規模自治体の違い・傾向の話で報酬の違いや、政党化の傾向などなるほどと思える話だった。

女性議員へのハラスメント問題も話題にあり、北上の女性議員は大丈夫か心配になった。

【昆野将之】

片山善博紙の講演

議会は各自治体においては最高決定機関であることから、主権者である市民にもっと関心を持ってもらえるよう取り組まなければならないと講演した。

パネルディスカッションにおいては、各人より問題及び取り組みが発表された。問題として出されたこと。

議員のなり手不足。

どこの市議会においても、選挙が無投票となっていることから市民において信任されていないなどの発言等が多いことから問題としているようです。これに関しては日本中で起こっている事柄で、国民の意識が変わらない事には改善策は見えてこないのではと思う。議会が議員に責任があると市民の中で申す方が見受けられるが、問題の見方が自分本位と見受けられる、無投票当選が認められないという方がなぜ立候補しないのか、そのような発言が無かったことは思っても公に出来ない雰囲気だったと見受けられた。現在北上市議会でも取り組んでいる事柄であることから、全国の先進的取り組みが公表

されることを期待していたが、我々と同じようなことで悩んでいることが理解出来た。

【藤本金樹】